

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員： 7名回答、回答率 100%
保護者様： 21名回答、回答率 80%

職員の意見

○環境・体制整備

- ・訓練室内に段差や死角がなく、安全に支援できる環境ではあるが、麻痺で歩行がスムーズでない児童がいるため、入口に手すりをつけた方がよいと感じている。
- ・教室が2階にあり、教室を利用する際は、階段の上り下りが必須となるが、歩行が不安な児童に対しては職員2人で前後で補助をするなどの工夫を行っている。
- ・机の配置や折り畳み机などを利用して、粗大活動などの際に、スペースを広く確保できるように工夫している。

○業務改善

- ・それぞれの業務について、半年に一度の評価を行っており、目標の確認、振り返りを行なっている。
- ・責任者・管理者だけでなく常勤・非常勤も含め階層別で研修が会社全体で組み立てられ、それに参加することで業務の改善に役立っている。
- ・送迎時等で保護者から頂いた意見は スタッフ間で共有し、支援をよりよいもの出来るよう参考にしている。
- ・今年第三者評価を受審した。外部の評価を踏まえ、よりよい事業運営を目指していきたい。

○適切な支援の提供

- ・年間目標とそれに伴う月間目標を意識した内容になるように活動のミーティングで意見を出し合い活動プログラムを立案している。同じような活動でも目的を変えて行なうことで固定化しないよう工夫している。
- ・取り組める時間や内容を、細かく検討して課題を設定している。長期休みや祝日では課外活動や調理活動など全体を通し、じっくり取り組める活動などを通して活動のメリハリをつけている。

○関係機関や保護者との連携

- ・保護者から利用前にお子様について情報はいただくことができおり、教室に見学に来たケースワーカーには細かく最近の様子など情報を共有している。
- ・送迎時には、毎回様子を伝えることができている。自己入退室のためお会いすることができない保護者には、電話やメールにてご連絡をすることで連携を取っている。

○保護者への説明責任等

- ・保護者会は実施できていなかったが、1月に保護者参観を行うことが出来た。
- ・地域に開かれた教室作りには至っていない為、感染症対策をしながら少しずつ交流できるように検討したい。

○非常時等の対応

- ・月に一度様々なテーマで避難訓練を実施し、利用者も含め緊急時の動き方の確認する事が出来ている。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

・「子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか」の質問に対して、8割の方から「はい」との回答をいただいたが「年齢の幅が広いので各々の活動に合わせたスペースがあればと感じる」「教室がせまく、公園で遊ばせてほしい」とのご意見を戴いた。

○適切な支援の提供

・活動プログラムが固定化しないよう工夫されているとの回答が9割強あったが、公園遊びや外食など増やしてほしいとの意見を戴いた。
・「保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか」の質問に対してすべての保護者様より「はい」との回答を戴いた。

○保護者への説明等

・「コロナ明けでようやく保護者会が開催出来るとのことでたのしみにしている」との回答を戴いた。
・「子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか」の質問に対して9割強の方から「はい」の回答を戴いた。

○非常時等の対応

・「日常からたくさん訓練をしていただいているおかげでしっかり万一の時の対応が入っている気がしている」との意見を戴いた。

○満足度

・9割以上の方から毎回子どもが楽しみに通っているという意見を戴けた。
・「子供だけでなく保護者へのサポートまで頂けて、親子共々大満足」という意見もあった。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

・スタッフや利用者の動線を教室内で検討し、スケジュールを組み立てて、ロッカーの場所や玩具等の貸出方法の見直しを行い、空間を広くとれるように工夫する。
・保護者様交流の機会の検討を行う。オンライン参観やミニ保護者会等、保護者同士や保護者とスタッフとの交流ができる機会を検討し、企画実行を行う。

○改善できた点・まだ残る課題

・ロッカーや玩具置き場の配置を変更し動線が良くなった。また玩具の一覧表を作成し貸出方法の変更も行った。玩具の保管方法や見せ方などの提供方法は、玩具の整理後子どもたちが自主的に取り出せるような仕組みを考えていきたい。

・机の移動により空間を広くとれるよう工夫することができた。
・保護者参観の実施することができた。保護者様が参加しやすいように土曜日に設定したが、より多くの保護者様同士が交流できるよう、保護者同士や保護者とスタッフの交流に関して内容の見直し、参観以外も検討することでより、今年以上に保護者様同士や保護者様と教室が関わりを密にとれるようにしていく。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・活動プログラムが固定化しないように複数の職員で多角的に考え、取り組める時間や内容を検討して課題を設定し提供できている。
- ・利用者が毎回通所を楽しみにしてくれている。
- ・保護者の話を聞いて相談に乗ることができている。

○改善点

- ・公園遊びなどの希望もあったため、課外活動の内容(バリエーション)を増やす。
- ・教室の大きく使えるよう、机の配置などを再度検討し、年齢や活動にあった空間が作れるよう職員で話し合い、棚の位置等を変更する。
- ・年齢にあった支援が出来る様、活動時の役割を作ることによって同じ活動の中でもそれぞれの年齢に合わせた活動プログラムを考える。
- ・地域交流が少ないため、他事業所との交流の検討や地域の商店への買い物体験など地域の資源を活用することで交流の機会を増やしていく。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・お子様の入退室時間に合わせて1日のスケジュールを見直し、支援の質の向上や空間の確保につながるようプログラムの整備を行う。
- ・地域の資源を中心として、ご希望のあった公園遊びなど様々な療育活動を企画し実行していく。
- ・年齢に合わせた支援が出来る様、教室でそれぞれの役割や活動内での目的を変えていくことで年齢に合わせた支援の実現を目指していく。

○1年間で取り組む具体策

- ・玩具の配置を変え、片付けやおもちゃの出し入れ等お子様それぞれが自ら行うことが出来る空間づくりを行うとともに机の配置など活動時広く使いやすいように配置を変更する。
- ・活動内の学年に合わせた役割を増やし、集団の中でも年齢にそった意識が出来るように支援内容を検討し、実行する。
- ・地域交流の為、イベントを調べて小さくても1つは参加することで地域交流の機会を設けていく。